

2021年度以降の人材育成方針

均等な機会提供による全国的な底上げと、外部環境への対応機会を活用した育成の2段で構成し、持続的な世代交代を意識して取り組む。

1. まずは既存の専門委員会の再整備を進める。改めて各ブロックから推薦された部長を中心とした運営を徹底することにより、均等な経験の蓄積を目指し、底上げによる地域間の是正を図る。
2. 同時に、2022年度以降は幅広い人材育成に取り組む。各委員会にて学習意欲の高い人材を発掘し（下図）、既存事業の補助的な役割に加え、特に協会外部からの需要に対して積極的な役割を持たせる中で、中期的に、地域環境や需要に対応したドッジボールの価値を創出できる人材の育成を図る。

委員会	名称	対象（各委員会で募集・選考し、理事会にて承認。）	
普及委員会	ドッジアドバイザー	シニア競技者	<ul style="list-style-type: none">● 活動状況と提案は、各委員会の担当理事が年度末の理事会にて報告し、検討の結果を次年度以降の事業計画に反映する。● 女性の割合40%を目指す。● 2024年度以降は、単独の委員会では解決できない目標を計画に加え、横断的な取り組みを促進する。
指導委員会	アシスタント指導員	A級指導員	
競技委員会	（レフェリーアドバイザー）	A級審判員（導入時は2020年度競技委員）	
国際委員会	（アスリート委員会の基礎※）	国際大会及び全国大会の双方の経験を持つ選手 ※国際大会経験は協会全体として足りないため、最初の世界大会派遣後に進める。	